

巻頭写真 サハリンのグイマツ林 (*Larix gmelini* var. *japonica* forests in Sakhalin)

グイマツは最終氷期の東北地方北部から北海道にかけて、ごく普通に分布しており (Sohma, 1959; 相馬・辻, 1988; Suzuki, 1985; 矢野, 1970など)、北海道では最終氷期最盛期から晩氷期にかけて、グイマツの優占する時期が認められている (五十嵐・熊野, 1981など)。しかしながらグイマツは、現在では択捉島およびサハリンを南限としており、北海道には全く生育しない。サハリンでの生育状況についてはソビエト連邦崩壊に伴い最近の報告も出てきているが (五十嵐ほか, 1993など)、それ以外で手に入るものとしては山崎 (1934) などの戦前の文献しかなく、氷期のグイマツ林の復元にあたっては、情報不足の観をまぬがれなかった。筆者は1996~97年夏の調査で、サハリン南部のグイマツ林を観察することができた。グイマツ林はサハリン南部にごく普通にあり、一般的な生育環境は湿地林であって、林床にカラフトイソツツジやヤチヤナギをびっしり伴って、グイマツの純林を形成する (写真A)。とくに広大なのは、アカエゾマツの北限地であるスサヤ河河口の湿地林で、飛行機の上からでなくては全体をおさえることはできないが、数 km²にわたって広がっている (写真B)。もう一つ特徴的な生育環境は砂堤上で、トンナイチャ湖とオホーツク海との間にある砂堤上では、林床にハイマツやコケモモを伴って、やや疎らなグイマツの純林が成立していた。しかしながらサハリン南部でも、グイマツ

の分布はこうした特殊な立地に限られており、山地斜面にかかるとエゾマツやトドマツ、カバノキ属、ヤマハンノキなどの森林におきかわってしまう。五十嵐ほか (1993) によると、サハリン北部のシュミット線以北では、山地斜面もグイマツ林で覆われるようになる。現在のサハリン南部でも、特殊な立地とはいえ、これほどグイマツ林が普通に成立していることを考えると、似たような環境条件の存在する北海道北部から全くグイマツ林が消滅してしまったことは不思議である。

文献 五十嵐・熊野. 1981. 第四紀研究, 20: 129-141. 五十嵐ほか. 1993. 第四紀研究, 32: 89-105. Sohma, 1959. Ecol. Rev., 15: 67-70. 相馬・辻. 1988. 第四紀研究, 26: 281-291. Suzuki. 1985. Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, n. s. No.137: 64-74., pls. 8, 9. 矢野. 1970. 地学雑誌, 76: 205-214, pl.1. 山崎. 1934. 京都帝大演習林報告, No.7: 1-54, 図1-30.

(能城修一 Shuichi Noshiro)

